

飛鳥FCがJFL昇格、次のステージへ

中南和地域からJリーグを目指す



株式会社 飛鳥FC

中川社長に聞く展望

橿原市を拠点に中南和地域からJリーグを目指す飛鳥FCは、「全国地域サッカーチャンピオンズリーグ2024」で優勝し、JFL昇格を果たした。チームを運営する株式会社飛鳥FC(橿原市飯高町・中川茂宣代表取締役)の中川社長は「JFL昇格で、一つのハードルを超えた。来年の目標は新たな舞台上で10位以内に入る」と意気込む。Jリーグ昇格を次の目標に掲げる今後の展望や、チームについて話を聞いた。

「来年の目標は10位以内に入ることに」

「まずはチームについて、お聞きしてもよろしいですか。」

「関西リーグを目指して、いこうと本格的に動きだしたのが、10年ほど前になりました。3年ほど前にNPO法人ポルベニルカシハラスポーツクラブから、Jリーグへの昇格を新たな目標に掲げ、チームの運営を引き継ぎました。」

「チームの特徴は。」

「リーグは前期と後期で計14試合に分かれています。私たちはどちらかと言えば「後期型」のチームです。後期にチームの最高潮を持っていくイメージです。シーズンが変わると選手が多く入れ替わるといっても、やはり最初のうちはなかなかチームワークを發揮できません。」

「同じチームで試合を重ねる中、選手同士が互いのパスやプレイのくせを見つめ、理解していきま。前期は負け越すことが多く、例えば7試合であれば2勝3敗2分けといったようなこともありました。」

「実戦を通して選手が成長し、またチームワークも成熟していくということでしょうか。」

「それもありませんし、チームの美濃部監督は作戦を立てるのが非常に上手です。元Jリーグ選手で、その後にJリーグチームの監督をされています。そういった経験と、相手チームのデータから戦い方を分析します。」

「また選手のポジションチェンジを試合中にも行い、すばやく対応しています。作戦と分析力、そして監督が選手から厚い信頼を得ることがチームの強さです。」

「チームの選手を集める際のポイントは。」

「Jリーグ昇格を目指すにあたり、平均観客数や」



JFLに昇格した飛鳥FC。次はJリーグの舞台を目指す(写真は飛鳥FC提供)

「選手は他のチーム選手とも繋がりを持っていきます。監督とGMが窓口になり選手の情報を集め、監督自身の人脈などもとに選手を集めています。また、選手はあくまでアマチュアになりますので、就労支援も大切です。」

「最後に、今後の目標を教えてください。」

「そのあたりはGMに任せていますが、SNSを活用して広くチームの周知と情報を発信するなどの戦略を立てているように感じます。JFLでは、各種やり取りや調整役などフロントの強化が必要です。それに加え、資金集めも課題になります。現在広報担当もない状況ですが、JFLに対応できる組織作りを、しっかりしていかねばなりません。」

「JFL昇格で、一つのハードルを超えました。来年の目標は10位以内に入ることです。舞台が変わりますので、さまざまな課題に対応する組織作り、ホームグラウンドが必要になります。」

「県内では先輩に奈良クラブさんがいます。もちろんライバルではありませんが、お互いにチーム力を高め、同じ舞台で戦えるように頑張っています。」

チームの情報発信、資金集めへフロント強化を



<https://asukafc.jp>